

# “和牛のオリンピック”

## 全国和牛能力共進会出場を目指して



# 動物科学部通信

Vol.29

令和4年  
3月

来年度10月、鹿児島県において、5年に一度の和牛の祭典、全国和牛能力共進会が開催されます。5年に一度のこの大会への参加を目指して、動物科学部でもこの春休みから本格的な取組みを開始しました。

“全共”と呼ばれ、全国の和牛生産者が集まるこの大会では、牛の姿や形を審査する「種牛の部」、肉質を審査する「肉牛の部」さらに、「高校及び農業大学の部」が特別区として設けられています。この特別区へは、愛知県から1頭のみ出場できるため、その1枠を勝ち取るための取り組みを進めています。特別区においても、種牛の部と同様、牛の姿や形の審査にするため、「会場で牛を引き、立たせる」ということが必要になります。そのためには、牛を調教することが必要です。

春休み期間中の毎日、全共に関わる生徒たちは牛舎へ通い、毎日牛を繋いで一定時間立たせてじつとさせるトレーニングをしています。出品を目指す「くゆる号」は、最初は繋がれた状態を嫌がったものの、何日か続けることで落ち着いて立っていることができるようになってきました。また、毎日生徒が訪れ、牛と話し、ブラシで手入れをすることで、牛との信頼関係も構築できていくように感じます。牛の気持ちを読み取ることができず、難しいこともありますが、毎日の積み重ねを継続して欲しいです。全共へ出場するには、愛知県で行われる予選を通過する必要があります。まずは、その予選会を目指して、くゆると一緒に頑張っていきたいと思います。



↑くゆる号

## 第6回和牛甲子園、さらにその先に向けて

次の和牛甲子園に向けて、出品予定牛のみお、ももの2頭の初めての肉質診断を実施しました。エコーを当てるために一部毛刈りが必要だったので、初めて毛刈りも経験しました。2頭とも、順調に発育していることが分かって安心しました。今後は楽しみます。また、先日みかわ牛の宣伝活動についての打合せを実施しました。愛知県内の多くの方が、みかわ牛をもっと広めるために頑張りたいと考えていることが分かりました。コロナの影響は今後も続き、なかなか対外的な活動が難しくなっている状況ではあります。学校もできる形で、みかわ牛を広めることに貢献していきたいと思えます。

さらに、現在飼育している第7回大会用の出品予定牛に新たな仲間が加わりました。今年度の夏に生まれた、自家産の「つむぎ」の相棒として、「みすず」が学校にやってきました。第7回大会は、つむぎとみすずの2頭で挑みます。みすずちゃんはまだすぐつむぎとも仲良くなり、人懐っこく、牛房に入るとずっと人にくっついて入るような可愛い牛です。また牛舎で会ったときには、可愛がってあげてください。ずっとぴったりにくっついて、実習服をなめ続けてきます。が、彼女に悪気はありません。



↑みすず号

### 【肉質診断 結果】

	みお	もも
ロース芯面積	61.0cm <sup>2</sup>	73.0cm <sup>2</sup>
皮下脂肪厚	3.2~2.1cm	1.7~1.5cm
バラ厚	7.1cm	8.1cm
BMSナンバー	8	10

### 伊良湖温泉ビジネスプランコンテスト

#### 優秀賞をいただきました

伊良湖温泉湧出に伴って開催された、伊良湖温泉ビジネスプランコンテストにおいて、動物科学部のプラン「幸せ運ぶ青色の温泉卵」が優秀賞をいただきました。26日に開催された、伊良湖温泉交流サミットにて表彰していただきました。牛や豚ではこれまでも様々な取組みをしてきていますが、取組み方によっては鶏でも様々な活動に繋がることが分かりました。このプランは、「幸せの青い卵」と呼ばれるアローカナの卵を、温泉卵にして、伊良湖温泉のお土産品にしようというプランでした。

